

地域と歩む医療福祉人

川崎医療短期大学は2012年、それまでの「介護福祉科」を名称変更し、全国初の「医療介護福祉科」を設けました。たんの吸引などの医療行為を介護職員にも認める介護保険法改正(11年)を受け、高度な専門性を持つ人材を育成して地域社会のニーズに応えるためです。その名の示す通り、「医療と介護の連携」「医療に強い介護福祉士の養成」を目標に掲げています。

現在、わが国は諸外国に例をみない

④ 医療に強い 介護福祉士

スピードで高齢化が進行しており、今後も75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。団塊の世代(約800万人)が75歳以上の後期高齢者となる「2025年問題」を控え、今後国民の医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれます。医療に強い介護福祉士の育成は時代の要請とも言えます。

医療介護福祉科では、通常の介護福祉士養成のカリキュラムに「老年医学」



医師のための介護体験

岡山県医師会が講座

移動や寝返り、入浴 双方の気持ち体感



体を無理やり引き上げるなど、やってはいけない介助方法も体験。永瀬内科医院(岡山市)の永瀬亮副院長は、「慣れない介護は、するのもされるのも怖い」という感覚を味わった。いつでも介護士が身近にいるわけではないので、医師にも知識が必要だ」と話した



要介護者の体重移動を利用して、負担が少なく移動させる方法を練習。旭川荘療育医疗センター(岡山市)の横山正司医師は「周囲の介護スタッフを見て大変さは理解していたつもりだが、実際にやってみるのは思った以上に難しい



紙おむつを着けて講義を受ける医師たち。「排せつにも挑戦して」という条件だったが、小谷医院(和気町)の小谷重光院長は「やろうとしたが、心理的な抵抗感が強くて無理だった。患者さんが嫌がる気持ちが分かる」

岡山県医師会(岡山市北区駅元町)は1月15日、医師が介護する側、される側を体験する、全国でも珍しい実践講座を、倉敷市立ホスピタル(倉敷市中庄)で開催した。高齢の在宅患者と関わることが多い開業医ら15人が、患者や介護者の気持ちを体感した。

岡山県医師会では江澤和彦理事長らを中心に最期まで暮らせる地域包括ケアシステムの構築に向けて研究を進めている。システム構築には、医療と介護分野が連携を深めることが欠かせないことから、医師たちに介護の実態とその重要性を学んでもらおうと、講座を企画した。

講座は、介護施設のプロデュ

ースやケア方法を指導する介護総合研究所「元氣の素の上」野文規代表が指導した。車椅子への移動やベッドでの寝返り、入浴など、場面が設定され、医師たちは患者役と介護者の役の両方を体験。要介護者の頭を下げる前傾姿勢にしてから立ち上がるがままに、人間の自然な体重移動を手助けする動きを繰り返し練習した。

自身も介護技術を学び、経験してから立ち上がるがままに、人間の自然な体重移動を手助けする動きを繰り返し練習した。

する病院で医療と介護の一體的

な提供に力を入れている江澤理恵事は「医療と介護は、人々の生

命を守るために切り離せない。今後も医師に介護知識を広め、岡山県全体で取り組みの輪を広げていきたい」と語る。

(矢根美紀)

川崎医療短期大学医療介護福祉科副主任・教授 山田 順子

「公衆衛生学」「人体の構造と機能」などを独自に加えて医療系科目を充実させています。授業は川崎医科大学附属病院内の教育施設を最大限に活用して、医療専門職が指導します。これま

でに約700人が卒業し、介護老人福祉施設や介護老人保健施設を中心に活躍しています。2年次の夏休みに川崎医科大学総合医疗センターで体験する

インターネットンシップの経験を生かして、

近年は病院で働く卒業生も増えています。

インターネットンシップで学生たちは、病院で働く介護福祉士の仕事の理解を深めます。看護師と介護福祉士が情報を共有しながら一緒に患者さんに関わっていることや、チームワークを大切に連携していることを身近で学びます。

カンファレンスにも参加させてもら

い、看護師と意見交換する様子を見る

ことができます。進路を考える上で大変役立っています。

川崎医科大学総合医疗センターでは「医療介護福祉士」という職種として勤務しています。回復期リハビリテーション病棟では臓卒中、脊椎損傷、骨折などの急性期治療後に全身状態が安定し、集中してリハビリティーションが必要な方に對して、介護のプロとして勤務しています。

さらに、退院に向けての不安や患者さん自身が願う未来像などの思いをくみ取り、このことを他職種に伝える橋渡しも大切な役割です。看護師・リハビリ専門職・医療ソーシャルワーカーとの情報共有を深め、チームの一員として患者さんの思い描く生活に少しでも近づけるよう支援しています。



川崎医療短期大学医療介護福祉科卒業後、2015年4月から川崎医科大学総合医疗センター回復期リハビリ病棟に勤務する牧本まさかさん。大学で身についた医療の知識を生き、患者の在宅復帰を支援している

4-1032 ◇

川崎医療短期大学 (086-46



やまだ・じゅんこ
川崎医療短期大学
大学院医療福祉学研究科博士課程医療福
祉学専攻修了。博士
福祉准教授を経て2015年から同短期大
学医療介護福祉科副主任、16年から医療介
護福祉科教授。岡山市出身。